

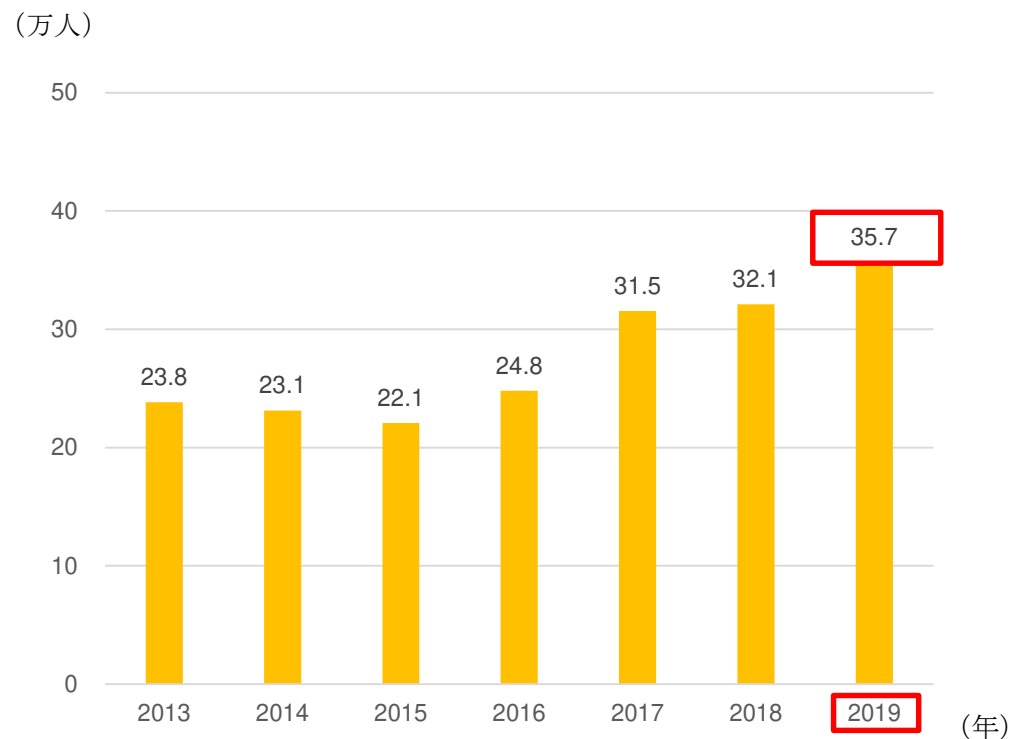
クルーズの安全・安心の確保に向けた 取り組みについて

令和2年12月8日

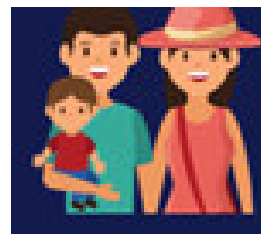
国土交通省 海事局

海事局長 大坪 新一郎

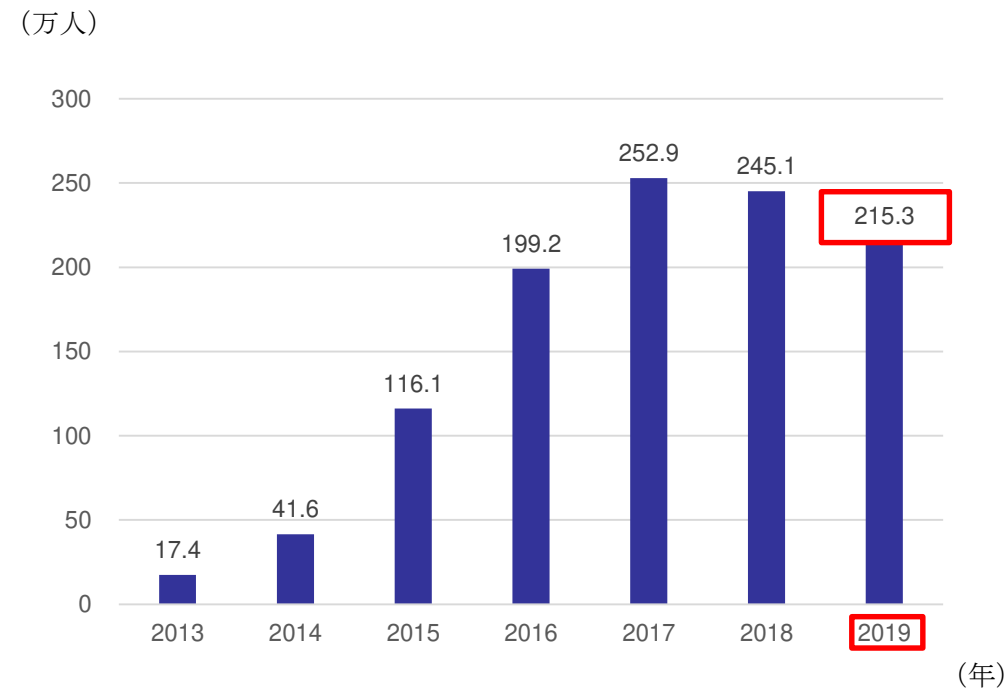
我が国のクルーズ人口



(出典) 海事局調べ



クルーズ船による外国人入国者数



(出典) 法務省入国管理局の集計による外国人入国者数で概数(乗員除く)。

(注) 1回のクルーズで複数の港に寄港するクルーズ船の外国人旅客については、(各港で重複して計上するのではなく)1人の入国として計上している。

- 中国で団体旅行が禁止された1月下旬以降、我が国へのクルーズ船の寄港キャンセルが相次ぐ。
- 2月下旬以降は、我が国でのクルーズ船の運航が全て停止。
- 安全・安心の確保のための取組が進められ、10月下旬から順次邦船3社の国内商業運航が再開。

日本船

郵船クルーズ(株)

飛鳥II



就航: 2006年3月
 (建造1990年7月)
 総トン数: 50,444トン
 客室数: 436室
 定員数: 872名
 乗員数: 490名

○11月2日より商業運航再開

商船三井客船(株)

にっぽん丸



就航: 1990年9月
 総トン数: 22,472トン
 客室数: 203室
 定員数: 532名
 乗員数: 230名

○10月25日より商業運航再開







日本クルーズ客船(株)

ぱしふいっくびいなす



就航: 1998年4月
 総トン数: 26,594トン
 客室数: 230室
 定員数: 620名
 乗員数: 220名

○12月5日より商業運航再開

<p>プリンセス・クルーズ (米)</p>	<p>コスタ・クルーズ (伊)</p>	<p>ロイヤル・カリビアン クルーズ (米)</p>
<p></p> <p>○運航停止中 ○2021年7月1日から日本発着の運航を計画</p>	<p></p> <p>○9月6日から東地中海、9月19日から西地中海、10月からイタリア国内で運航開始 ○欧州の感染拡大に伴い、11月から1隻の運航を休止、現在は1隻で運航中</p>	<p></p> <p>○運航停止中</p>
<p>ノルウェーجان クルーズ (米)</p>	<p>ドリームクルーズ (香港)</p>	<p>MSCクルーズ (伊)</p>
<p></p> <p>○運航停止中</p>	<p></p> <p>○7月26日から台湾、11月6日からシンガポールで国内運航開始</p>	<p></p> <p>○8月16日から西地中海で運航開始 ○欧州の感染拡大に伴い、11月から運航休止</p>

I. ダイヤモンド・プリンセス号等事案の検証について

- 船内の感染拡大について、ダイヤモンド・プリンセス号、ユスタ・アトランティカ号事案において国交省が課題、教訓とする事項を整理
- 再発防止に向け、船側、受入港湾側、国交省にそれぞれ求められる措置を整理

III. 関係者の役割分担について

- クルーズ船の受入判断や有症者・感染者等への対応が求められる際に、クルーズ船事業者、検疫等の国の関係機関、港湾管理者や保健所等との間で、迅速に対応できる体制を構築
- クルーズ船の寄港に関わる関係機関間の対応訓練を実施

V. 実効性担保のあり方について

- 日本のクルーズ船事業者(邦船社)が策定するマニュアルの船舶ガイドラインへの適合につき、(一財)日本海事協会(NK)が認証
- 海上運送法に感染症対策(衛生管理規程)を追加し、邦船社が衛生管理規程を遵守することを義務づけ

II. クルーズの再開にあたって

- 準備の整ったクルーズ船と受入港から、国内のショートクルーズをトライアルとして実施
- 上記トライアル結果等を踏まえ、本格的に国内クルーズを実施
- 国際クルーズについては、水際対策や他国の対策との調和に留意し、ガイドラインの検討等の準備を進める

IV. 安全・安心確保に向けた具体的措置について

- 港湾管理者等は、クルーズ船の寄港受入に際し、船舶及び港湾ガイドラインへの適合を確認するとともに、都道府県等の衛生主管部局を含む地域の関係機関で構成される協議会等での合意を得た上でクルーズ船を受入
- 船内で感染者が確認された場合、次の寄港地での陸上隔離等を実施後、速やかに下船港に向かう

VI. 国際的なルール作りを含む主導的役割のあり方

- 外務省等関係機関と連携し、国際海事機関(IMO)での国際ルール作りも視野に、クルーズ船の安全確保に向けた国際的な議論を我が国が今後主導

＜中間とりまとめの策定に当たって、ご意見を伺った有識者＞

赤井信郎(大阪大学大学院国際公共政策研究科教授)、河野真理子(早稲田大学法学学術院教授)、須野原豊(日本港湾協会理事長)
高松正人(観光レジリエンス研究所代表(危機管理))、森隆行(流通科学大学教授)、森重俊也(日本外航客船協会理事長)
和田耕治(国際医療福祉大学大学院医学研究科教授)

国土交通省におけるクルーズの安全・安心確保に係る検討・中間とりまとめ（9月18日）

日本外航客船協会ガイドライン（国内クルーズを対象）
※9月18日初版、10月23日第二版

- 乗客の事前スクリーニング
 - ・検温、質問票、本人確認 など
- 船内の予防策
 - ・マスク着用、手洗い、消毒、健康管理の徹底
 - ・船内施設の座席数減、間隔確保
 - ・換気の実施 など
- 有症者発生時の拡大防止
 - ・船医による診療
 - ・船内隔離、イベント及び船内施設の使用中止 など

日本港湾協会ガイドライン（国内クルーズを対象とした上記ガイドラインに対応）
※9月18日初版、10月23日第二版

- クルーズ船の旅客や乗組員、ターミナルビルの従業者の間の感染防止
 - ・症状のある者の入場回避、マスク着用
 - ・列や座席の間隔確保、消毒液配置 など
- ターミナルビルの従業者の感染防止
 - ・健康状態確認 など

船内における感染防止対策
（クルーズ船事業者）

- ガイドラインに基づき各船のマニュアルを作成。日本海事協会の第三者認証を取得（邦船3隻は取得済）
- 邦船社に、衛生管理規程の作成・遵守を義務づけ（11月に海上運送法の省令改正）

旅客ターミナル等における感染防止対策
（港湾管理者等）

寄港地における受入体制の構築

クルーズ船の寄港検討

情報共有等

寄港地の関係機関等 ※

※衛生主管部局、港湾関係機関等



船内施設入口での検温
(サーモグラフィー)

テーブル間の間隔を確保



PCR検査 (スマートアンプ法)

- 10月下旬から国内クルーズの運航再開
- 船内での感染症対策を徹底
- 最新の船舶ガイドラインのブラッシュアップ、随時見直し

クルーズ船に対する不信感、不安感を払拭

国内クルーズ

- 長期クルーズの再開
(現在3泊4日程度⇒9泊10日程度
まで拡大することで日本一周も可能、
クルーズ商品ラインナップの充実)

水際対策等を踏まえ、国際クルーズ
再開への準備

国際クルーズ

- 関係省庁とも連携し、国際クルーズ
用船舶ガイドライン等を作成

ご清聴ありがとうございました。

令和2年12月8日

国土交通省 海事局

海事局長 大坪 新一郎